

原発がこわい女たちの会
<http://blog.zaq.ne.jp/g-kowai-wakayama/>

《 2015年09月 | トップ | 2015年11月 》

検索

2015年10月15日(木)

 検索

ドキュメンタリー映画『首相官邸の前で』を観ました

アーカイブ

東日本大震災の後、原発政策への抗議デモが広がり2012年の夏には20万人もの人々が首相官邸前を埋め尽くしたが、この作品は、デモ参加者らへのインタビューと、現場でデモの様子をとらえたインターネット映像で構成されたものです。企画・製作・監督は小熊英二(慶応大学教授)。

- 2016年11月(2)
- 2016年10月(1)
- 2016年09月(1)
- 2016年08月(2)
- 2016年07月(4)
- 2016年06月(2)
- 2016年05月(1)
- 2016年04月(3)
- 2016年03月(2)
- 2016年02月(3)
- 2016年01月(2)
- 2015年12月(4)
- 2015年11月(2)
- 2015年10月(1)
- 2015年09月(3)
- 2015年08月(3)
- 2015年07月(2)
- 2015年06月(2)
- 2015年05月(2)
- 2015年04月(2)
- 2015年03月(2)
- 2015年02月(2)
- 2015年01月(5)
- 2014年12月(3)
- 2014年11月(2)
- 2014年10月(2)
- 2014年09月(2)
- 2014年08月(1)
- 2014年07月(2)
- 2014年06月(1)
- 2014年05月(3)
- 2014年04月(4)
- 2014年03月(3)
- 2014年02月(1)
- 2014年01月(3)
- 2013年12月(4)
- 2013年11月(1)
- 2013年10月(3)
- 2013年09月(5)
- 2013年08月(1)
- 2013年07月(3)
- 2013年06月(5)
- 2013年05月(3)
- 2013年04月(2)
- 2013年03月(6)
- 2013年02月(2)
- 2013年01月(3)
- 2012年12月(2)
- 2012年11月(1)
- 2012年10月(2)



映画のポスター

小熊監督は次のように述べています。(引用部分は茶色)
 この映画の主演は、映っている人びとすべてだ。その人びとは、性別も世代も、地位も国籍も、出身地も志向もばらばらだ。そうした人びとが、一つの場につどう姿は、稀有のことであり同時に、力強く、美しいと思った。歴史家である私がいまやるべきことは、これを記録し、後世に残すことだと思った。
<http://www.uplink.co.jp/kanteimae/director.php>

論文を書くのと同じように、これまで得てきた学識や視点などを活用して、この出来事をきちんと映画として記録すること。それは国内だけでなく世界の他の国々にとっても有益なこと、というのです。(英語の字幕付きになっています)

主にインタビューに応じたのは、事故当時の首相、菅直人を含む8人。年齢、

性別、職業、活動歴、など様々です。在日の外国人もいる。フクシマ現地からの避難者も。彼らが東京電力福島第一原発事故とどう関与したか。時の流れとともに原発をめぐる政治のあり方、マスメディアの動きをどう感知したか、なにより自分はどう行動すればいいか模索し決断しつつ生きている姿が描き出されています。

それらと交錯しながら映しだされるインターネット動画は、福島原発の爆発に始まり、放射線汚染地図、東京では店頭から商品が消える、そして東京を中心とした集会・デモの様子を時系列的に映し出す。なおこれらの映像はすべて、小熊監督の依頼に応じて無償提供されたものだそうです。

(以下、発言は青色。必ずしも正確な再現ではない)
管・元首相は、「最悪の場合、東京を含む250^千圏内に住む5000万という人が避難せねばならなくなる事態を想定し、国が壊れると思った」と述懐しました。

「大使館からは避難するよう勧告されたが、私は逃げるわけにはいかなかった。今は逃げる時ではないとも思った」
「病院事務をしていて、職場の医療の仲間たち、何より患者さんがいるのに自分だけ逃げられるわけがない」
避難できるものなら、それに越したことはない。とくに幼い子どもがいたりすれば。だけど・・・と逡巡した人がどれほど大勢いたことでしょうか。フクシマから200^千離れた東京では、汚染の状況も知らされませんでした。

「事故の直後、東京電力に抗議しようと東電本社前に数百人が集まったのに、マスコミ取材はゼロ。9月に6万人のデモをやった時にもマスコミは何一つ報道しない。日本って気持ち悪い国だと思った」
マスコミの体質を問うのがこの映画の目的の一つと思われました。小熊さんは、別のところで次のように言っています。
マスメディアがこのデモを報道しなかったのは、政治的な理由からというより、当時のマスメディアの制度と彼らの持っていた感性では、こういったデモを捉え理解することができなかったという理由からだと考えています。
<http://blogs.com/article/131399/>

確かに、当時のことを思い出しても、新聞やテレビは事故の被害状況は満載だったが(それ自体は必要だ)、原発に抗議する人びとの報道は殆ど見られず、数万人レベルのデモも片隅での小さな記事だけだったと記憶しています。だから知り合った朝日新聞本社の記者に「私は親の代からの朝日の講読者だけど、もう止めたいわ」と苦言したことがあります。(記者氏は、多分あちこちで似たことを言われるのでしょう、いやいや、朝日も変わりますから、と言っていた。)

私のネット環境が今ほど自在ではなく、まして関西在住者にはもう一つ伝わらないのも事実です。そんなわけで私は、11年4月にあった高円寺のデモも6月の新宿アルタの集会もこの映画が初見でした。自然発生的で真っ直ぐな、こんなお祭り風の賑やかな集会があったんだ!!という発見です。

「参加者に年長者が多いのは、彼らに経済発展を謳歌してきたことへの罪悪感があるのかと思った」(注:これはオランダ人のヒンさん)
「このデモをみて、日本人はNOをいう力を持っていたのだ、と分かった」(同)なかなかシビアです。

人前で初めてマイクを握ったという女性は「(集会で、原発がなければ電力は本当に足りないのかとの疑義をただしたのは)東京にいる自分たちの役割だと思ったから」と言っています。その深く考えた真摯さには心を打たれました。

やがて関西電力大飯原発再稼働の政治判断が喧伝され始め、当時の民主党政権は、12年6月「国民の生活を守るために原発再稼働が必要」(野田佳彦首相)としました。原発政策をこそ問題にしなければならないと、集会の表舞台は首相官邸前へ。デモ参加者は日増しに膨れ上がり、7月29日にはついに20万人。車道を埋め尽くす人々の様子が空中撮影されました。12年7月の「さようなら原発10万人集会」もその一つで、本ブログ12年7月28日号に参加記を載せています。

12年8月には首都圏反原発連合のメンバーが首相官邸内で野田首相と話し合いの場を持つに至りました。<http://coalitionagainstnukes.jp/?p=5853>
これはマスメディアも報道しましたが、映画は動画なので全体像が分かりやすく、興味深いです。官僚用語でしか対峙できない首相と、市民側の自在に繰り出す言葉の対比は実に際立つものがありました。

そして、9月民主党政府は「2030年代原発ゼロ」を掲げてゆるやかに脱原発へ舵をきりました。脱原発の民意の反映とっていいでしょう。(しかし閣議決定は出来ず。また政権交代した安倍政権は、14年原発回帰への姿勢を打ち出しました)

- 2012年09月(2)
- 2012年08月(2)
- 2012年07月(4)
- 2012年06月(4)
- 2012年05月(3)
- 2012年04月(1)
- 2012年03月(1)

最新コメント

- [日韓の原発事情、国 by 民守 正義(08/21)
- そもそも、我が和歌 by 清水俊幸(07/25)
- コメントありがとう by sora(12/05)
- 突然すみません。東京 by 里美(11/22)
- 10/26と11/29のチケッ by 角谷(10/23)
- starさんコメントあり by sora(09/14)
- このブログを読むまで by star(09/13)
- こんにちは。メッセ by わんこ(04/15)
- 現在稼働している大飯 by star(04/09)
- 廃炉産業を起こしてほ by kaziharayosiyuki(03/14)

カレンダー

< 2015年10月 >						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

最新記事

- 琵琶湖が危ない 老朽原発美浜3号も廃炉に！ 11・13琵琶湖集会(11/15)
- 汐見文隆先生、ありがとうございました(11/08)
- 原発がこわい女たちの会 ニュース99号発行(10/12)
- 高速増殖炉もんじゅ廃炉へ(09/27)
- 老朽原発・美浜3号機は廃炉に！パブコメを出そう(08/28)
- ピースボートで韓国古里(コリ)原発を見学してきました(08/21)
- 熊本地震の経験から原発の耐震性見直しを要求し、25団体で共同声明を出しました(07/22)
- 老朽原発・関西広域連合へ要望書と和歌山県との話し合い(07/17)
- 原発のない社会を投票で示そう！(07/05)

映画はこのあたりで終わっています。
エンディング・ロールには、全国各地で行われた脱原発のデモ集会在覧されていました。

なお補足すると、官邸前金曜行動は現在も継続しており、私が上京した8月21日金曜夜にも千人位が集まって元気にスタンディング。すぐ近くの国会議事堂前、安保法案反対のSEALDsの盛り上がりほどではなかったですが。

2015年の夏、安保法制に抗議するSEALDsは多くの人の耳目をひきました。彼らはデモのイメージを変えた、とよくいわれます。ラップ調のコール、軽快で華々しい鳴り物や衣装などの楽し気なデモのスタイル、そして組織動員などと関係なく普通の人々が参加するようになったと。でもそういった特長は、マスメディアが彼らを取り上げたからにほかならない、と私は考えます。既に3.11後の脱原発のデモにそのスタイルは明らかです。また誰でもが参加できるという点では70年のベ平連(ベトナムに平和を！市民連合)運動にだってあったはずで

市民や学生など人々の運動というのは、途絶えたり様変わりしても地下茎で繋がっていてこれからも続いていくのか、と感じながら映画『首相官邸の前で』を観ました。
そして、私たち一人一人がどのように生きていきたいのか、どのような社会をめざしたいのかが、ますます問われていると思いました。

原発がこわい女たちの会
ニュース98号発行(07/04)

SCHEDULER

ナビゲーション

トップ
記事の投稿
管理
RSS
ログアウト

BLOGariは2017年1月末
サービス終了します

2015-10-15 | [記事へ](#) | [コメント\(0\)](#)

RSS 2.0